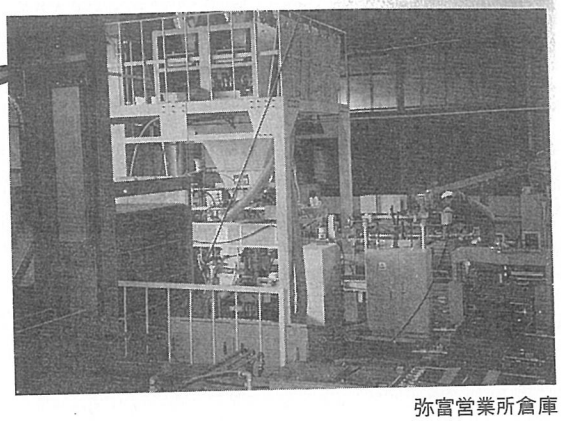
こんにちは

会社訪問記



弥富営業所倉庫

木くず、植物性残さの有効利用を積極的に推進。

株式会社小桝屋

（名古屋市中川区）

木くず、植物性残さを使った堆肥化を積極的に行われている株式会社小桝屋。名古屋市中川区にある本社にお伺いし、事業内容等を小島社長にお話をしていただきました。

――木くず、植物性残さを使った堆肥化を行われているということですが、いつ頃から手がけられはじめたのですか。

小島社長（以下小島に略）『堆肥化の研究については、10年以上前から木くず・植物性残さの有効利用方法の模索を行っていましたが、事業化に成功したのは８年程前です。』

小島社長

―― それ以前は何を事業内容にされていましたか。

小島『当社のそもそもの起源は石炭商です。石炭が産業の主燃料だった時代から事業を行ってまいりました。その後、製材から発生する木くずを燃料として利用することを手がけ、現在にいたっています。ですから、通常いわれる産業廃棄物処理業者の方とは系統が少し違いますね。』

―― では、貴社で生産する堆肥の特色を教えていただけませんか。

小島『肥料の品質が良くなければならないということは当たり前ですが、当社の場合は特に品質管理に細心の注意を配っていることが特長ですね。まず、堆肥の製造場所からできた製品をすぐ出荷するということも行いません。できた製品は全て弥富営業所に集積し、そこで最終的な品質チェックを行い、良質の製品だけを選別して袋詰めまで一貫して行ってから出荷する体制を整えています。効率だけを考えると、製造場所から直接出荷した方がよいと思いますが、品質保証の面で厳密なチェックができません。クオリティの高い製品をお客様にお届けすることが、製造者側の最低限のマナーだと私は確信しています。』

――堆肥に動物性残さは使っていないのですか。

小島『動物性残さ自体は取扱っていますが、堆肥には使用していません。当社の堆肥の販売先は農業関係が多いのですが、農家の方の中には動物性残さが入っているだけで作物に障害が起こると信じている方がまだいらっしゃるため、それにお応えする意味でも残さは植物性のみに限定しているのです。』

―― 産業廃棄物処理業も含めた貴社の事業の社会的位置付けについては、どのようにお考えになっていますか。

小島『処理代はいただいておりますが、資源の有効利用を通して社会に貢献している、という認識を持っております。社員全員がこれを信念に日夜がんばっています。』

―― 最後に、将来の事業計画を教えていただけませんか。

小島『この１年を目安に、汚泥の許可を取得し、食品汚泥の堆肥化に取り組んでまいりたいと考えています。』

社名／株式会社小桝屋　所在地／名古屋市中川区山王４丁目７番21号
代表者／小島嘉豊　創業／明治34年　従業員／20名
ＴＥＬ／052(322)5131　事業所／本社、弥富営業所倉庫
営業種別／収集運搬、中間処理　取扱い品目／木くず、植物性残さ